

授 業 科 目 名	社会的養護	教 員 名	高橋 博	免許・資格 との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
授 業 形 態	講義	担当形態	単独		保育士	必修
科 目 番 号	SEN304	配当年次	3年前期	卒 業 要 件	こども音楽療育士	
単 位 数	2単位				小幼コース	選択
科 目						
施 行 規 則 に 定 め る 科 目 区 分 又 は 事 項 等						
科 目	告示別表第1による教科目					
系 列	保育の本質・目的に関する科目					
一 般 目 標	<p>社会的養護の意義と役割をふまえ、社会的養護の歴史、実践、理論について理解する。また、社会的養護の実践の意義と内容を理解する。</p> <p>(1) 社会的養護の意義と役割 社会的養護についての意義と役割について理解する。</p> <p>(2) 児童養護の歴史、実践、理論 児童養護の歴史、実践（人物）、理論について理解を深める。</p> <p>(3) 社会的養護の実践 社会的養護の実践とその意義を理解する。</p>					
到 達 目 標	<p>(1) 社会的養護の意義と役割</p> <p>1) 子どもを取り巻く社会状況の変化を理解する。</p> <p>2) 子どもの権利や人間としての尊厳について理解する。</p> <p>3) 社会的養護の意義と役割について理解する。</p> <p>(2) 児童養護の歴史、実践、理論</p> <p>1) 児童養護の歴史について理解する。</p> <p>2) 児童養護の実践について理解する。</p> <p>3) 児童養護の理論について理解する。</p> <p>(3) 社会的養護の実践</p> <p>1) 施設養護の実践とその意義を理解する。</p> <p>2) 家庭養護の実践とその意義を理解する。</p> <p>3) 社会的養護の実践の課題を理解する。</p>					
授 業 の 概 要	<p>養護原理、養護内容の名称が変更になったもので、まず、現在の社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について考察し、福祉制度における類型別施設養護の意義とその処遇展開についての基礎知識を習得する。施設における日常生活援助、施設保育士の専門性、特別な配慮を必要とする幼児への援助や保護者への援助について検討する。</p> <p>アクティブラーニングとして、振り返り、レポートなどを取り入れる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	<p>本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 社会・教育等に関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。</p>					
授 業 計 画	<p>第1回：講義概要の説明（本講義の主旨および講義計画について）</p> <p>子どもの育ちを社会の役割Ⅰ（目標(1)-1))</p> <p>(1) 子育てを取り巻く社会状況の変化</p> <p>(少子高齢化の進行、家庭機能の低下と育児不安、現代社会が抱える子育てのしにくさと養護問題、子ども虐待の増加)</p>					

	<p>第2回：子どもの育ちを社会の役割Ⅱ（目標(1)-2）</p> <p>（2）子どもの権利 （子どもを中心とする枠組み、生きるための権利、人間としての尊厳、子ども虐待、不適切な養育と子ども虐待の連続体）</p> <p>第3回：子どもの育ちを社会の役割Ⅲ（目標(1)-3）</p> <p>（3）健やかに生まれ育つ権利を護るための社会的養護 （社会を支える子どもの育ち）</p> <p>第3回：児童養護の歴史Ⅰ（目標(2)-1）</p> <p>（1）児童養護の歴史の変遷① （古代から中世、江戸時代、明治・大正時代）</p> <p>第4回：児童養護の歴史Ⅱ（目標(2)-1）</p> <p>（1）児童養護の歴史の変遷② （昭和から終戦まで、終戦直後から高度経済成長期まで、高度経済成長からオイルショックまで、オイルショックから現代まで）</p> <p>第5回：児童養護の歴史Ⅱ（目標(2)-2）</p> <p>（2）先駆者の取り組みA （石井十次）</p> <p>第6回：児童養護の歴史Ⅲ（目標(2)-2）</p> <p>（2）先駆者の取り組みB （留岡幸助、糸賀一雄）</p> <p>第7回：児童養護の歴史Ⅳ（目標(2)-3）</p> <p>（3）理論的な流れA （ホスピタリズム論争）</p> <p>第8回：児童養護の歴史Ⅴ（目標(2)-3）</p> <p>（3）理論的な流れB （家庭的養護理論、積極的養護理論、集団主義養護理論）</p> <p>第9回：社会的養護の提供Ⅰ（目標(3)-1）</p> <p>（1）児童養護の体系 （2）施設養護A （児童福祉施設の種類、入所施設のスタイル）</p> <p>第10回：社会的養護の提供Ⅱ（目標(3)-1）</p> <p>（1）児童養護の体系 （2）施設養護B （児童福祉施設の設備と職員の配置基準、被虐待児への対応）</p> <p>第11回：社会的養護の提供Ⅲ（目標(3)-1）</p> <p>（3）家庭養護A （里親制度の概要）</p> <p>第12回：社会的養護の提供Ⅳ（目標(3)-2）</p> <p>（3）家庭養護B （小規模型児童養育事業＜ファミリーホーム＞、里親への支援）</p> <p>第13回：社会的養護の提供Ⅴ（目標(3)-2）</p> <p>（3）家庭養護C （養子制度）</p> <p>第14回：社会的養護の提供Ⅵ（目標(3)-3）</p> <p>（3）社会的養護の課題</p> <p>第15回：授業の総括 期末試験</p>
学生に対する	レポート提出20%、発表20%、期末試験60%

評 価	<p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
授 業 外 学 習 に つ い て	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：毎回講義の最後に、次回の講義内容のテキスト箇所を伝えるので、入念に予習しておくこと。また、不明な点等は調べておくこと。 ・事後学修：講義を受けて、レポート課題があるときは、必ず次回の授業で提出すること。また、講義で使った資料やノートファイル管理を徹底すること、講義で使用したテキスト箇所を必ず復習しておくこと。 ・その他：毎週土日に必ず振り返りを行うこと。
テ キ ス ト	櫻井奈津子 編著『社会的養護の原理』 青踏社 2016年
参 考 書 ・ 参 考 資 料 等	<p>『幼稚園教育要領 (平成29年告示)』</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成29年告示)』</p> <p>『保育所保育指針 (平成29年告示)』</p>
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ	自学自習、ディスカッション、発表など積極的なアクティブラーニングに取り組むこと。
オ フ ィ ス ア ワ ー	メール等でアポイントを取ること。